



竹林の風

道徳教育応援チーム派遣事業 ～上三川町立北小学校の実践～

北小学校では、児童対象の道徳アンケートの結果を詳細に分析し研究テーマを「豊かな心を持ち、自己を見つめようとする子どもの育成」に設定しました。そして、「考え・議論する道徳」の授業づくりに向けて「話し合いの工夫」、「発問の工夫」、「構造的な板書の工夫」に焦点を当て、全職員が一丸となって研究を進めてきました。

児童の意見を丁寧に取り上げ
認め励ます机間指導



今年度の研究の成果

◆話し合いの工夫◆

ペア、小グループ、全体と目的に合わせて活動形態を変えたことで、活発に意見の交流をすることができました。

◆発問の工夫◆

ねらいとする道徳的価値に迫る中心発問を設定し、児童の反応に応じた的確な補助発問をすることで、児童が自分の事として考えることができました。

◆構造的な板書の工夫◆

児童の思考をサポートすることができました。

場面絵等の掲示物を用い主人公の気持ちの変化を時系列で整理



主人公の顔の絵を貼る高さを変えることで心情の変化を表現



今後は児童の発言やつぶやきを適切に取り上げ、それを生かして全員がさらに思考を深めていくような授業の展開や、評価に関する取組等について研究を深めていく予定です。

幼小ジョイントプロジェクト ～幼小の学びの接続のために～

* 幼小とは…幼児教育と小学校教育を指します

研究の概要

幼小ジョイントプロジェクトは幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的に、毎年県内1市町を指定して行っている事業で、今年度は宇都宮市が指定を受けました。五代小学校と認定すずめこども園、北雀宮保育園の1校2園が市のモデルとなって、保育・授業参観や幼小の連携に向けた研究協議を行いました。

プロジェクトの成果

今回のプロジェクトでは、幼児期に経験させておきたいことと、それを受けて小学校で培っていくべきこと等を、幼小それぞれの立場で考え意見を交換する機会を継続的に持つことができました。「協同性」という視点で保育・授業参観を行う中で、幼児期に自分の思いを大切にしながら友達と関わり合って遊びこんできた経験が、小学校での話し合い活動の場面で生きてくるといった、学びのつながりが見えてきました。

今後、各学校でこのような発達段階を考慮した幼小の連携が推進されることで、幼児期から児童期への学びのつながりが、さらに円滑になっていくことが期待されます。

子どもたちが協同性を育てていく様子



遊びの中で個々の関心が
つながり合いました



活動をよりよくする
ために話し合いました



みんなでアイデアを出し
合せて作業しました



楽器に触れながら自然
に交流が深まりました

研究協議の様子



新たな視点をもつ
きっかけになりました

つながる食育推進事業 ～宇都宮市立今泉小学校の取組～



近年、偏った栄養摂取など子供たちの食生活の乱れや肥満・痩身傾向などが見られ、学校において食育を推進することが喫緊の課題となっています。栄養教諭を中心として、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等と連携し、学校における実践的な食育や保護者を巻き込んだ取組の実践が求められる中、今年度、宇都宮市立今泉小学校では、つながる食育推進事業として「家庭とともに取り組む食生活改善プロジェクト～食育チャレンジシートを活用した児童の自己管理能力育成～」を行っています。様々な取組の中から、その一部を紹介します！！

校内のつながり～食に関する授業の充実～

◆栄養教諭の授業参画、校内教職員や保護者への公開授業◆

4年 学級活動「朝ごはんってすごい」



5年 家庭科「はじめてみようクッキング」

校内のつながり

～児童会活動の充実～

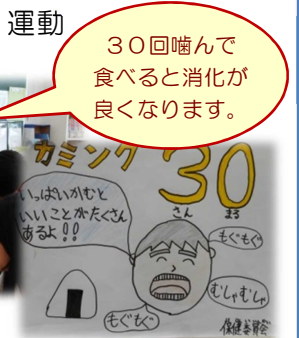
◆給食委員会◆

- *食育キャラクター・標語コンクール
- *食育ポスターの作成



◆保健委員会◆

- *カミング 30 運動



家庭とのつながり～わが家のおすすめ餃子コンテスト～

手づくり餃子部門
最優秀賞



「しそみそ棒ぎょうざ」

餃子を使った一食部門
最優秀賞



「コーンとキムチのおいしいぎょうざ」

家庭とのつながり

～学校と家庭の双方向で取り組む「食育チャレンジシート」～

毎月 19 日前後の金・土・日曜日のうち一日を「食育チャレンジデー」として、親子で取り組みます！

地域等とのつながり

～白楊高等学校との農業体験交流～



今泉小学校では、保護者や地域の方々の協力を得ながら全校体制で食育を推進し、紹介しきれないほど多くの実践に取り組まれています。取組の成果として、マナーの改善や食生活をよりよくしようとする態度が見られるなど、児童の変容が表れています。また、保護者の方の食に対する意識の高まりも感じられているようです。今後も、「つながり」を密にしながら食育が推進されることを期待しています。